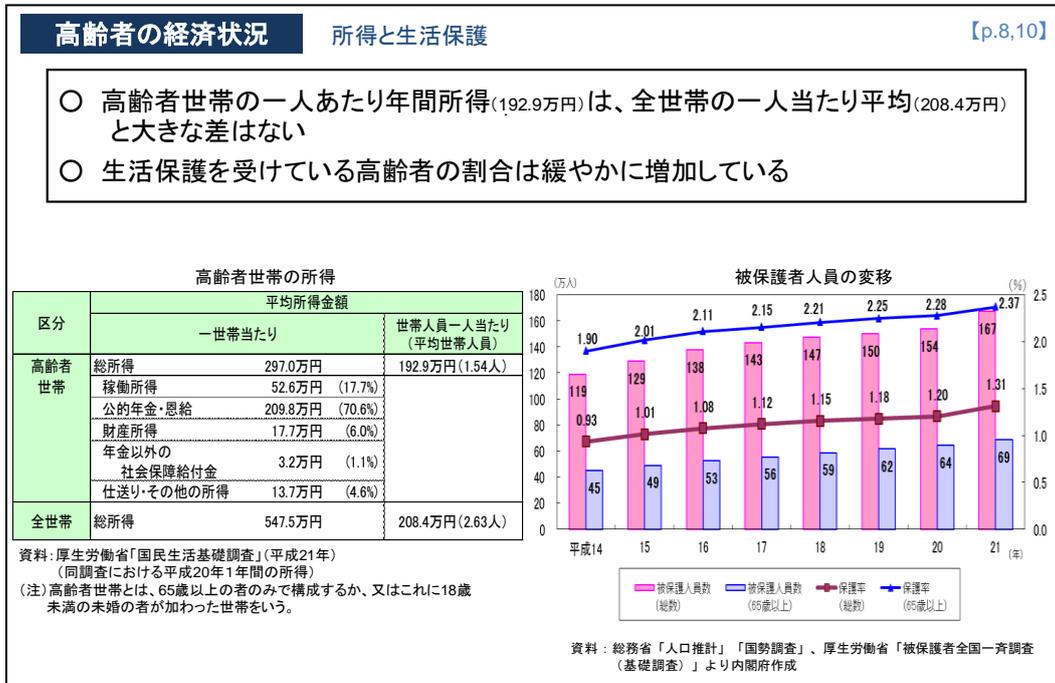


<所得と生活保護>

世帯人員一人当たり平均年間所得は、高齢者世帯が192.9万円、全世帯が208.4万円なので、大きな違いはないということです。生活保護の受給者の数は全体と65歳以上のいずれも伸びていますが、人口に占める生活保護受給者の割合は、平均の数字よりも高齢者の数字のほうが高くなっています。前述したように貯蓄は平均値で見ると高齢者は多いのですが、生活保護を受けるような状態になるリスクも高齢者が大きいと言えるでしょう。



<要介護者数>

高齢者の要介護者数は、介護保険法ができた当初の平成13年度は288万人だったのですが、平成20年度は452万人で、急速に増えている状況です。

